

製品名: Mad 4 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab13550

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	MXD4
別名	MXD4; BHLHC12; MAD4; Max dimerization protein 4; Max dimerizer 4; Class C basic helix-loop-helix protein 12; bHLHc12; Max-associated protein 4; Max-interacting transcriptional repressor MAD4
遺伝子 ID	10608.0
SwissProt ID	Q14582
免疫原	抗血清はヒト MAD4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

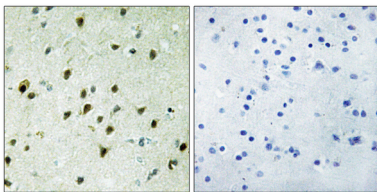
背景

この遺伝子は MAD 遺伝子ファミリーのメンバーです。MAD 遺伝子は、MAX タンパク質とヘテロ二量体を形成し、転写抑制複合体を形成する、基本的なヘリックス-ループ-ヘリックス-ロイシンジッパータンパク質をコードします。MAD タンパク質は MYC と MAX の結合を競合し、MYC は MAX とヘテロ二量体を形成し、転写活性化複合体を形成します。げっ歯類を用いた研究では、MAD 遺伝子は腫瘍抑制因子であり、分化組織における細胞増殖の調節に寄与することが示唆されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 転写抑制因子。MAX と結合し、コア配列 5'-CAC[GA]TG-3' を認識する配列特異的 DNA 結合タンパク質複合体を形成します。MAX と競合することで MYC の転写活性を拮抗し、MYC 依存性細胞形質転換を抑制する。類似性: 1 つの基本ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。サブユニット: 効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要である。MAX とヘテロ二量体として DNA に結合する。SIN3A および SIN3B と相互作用する。RNF17 と相互作用する。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; ドメインファミリー; HLH/ロイシンジッパー

画像データ



MAD4 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。